

令和元年度 第1回
北見市中小企業振興審議会

議事録要旨

開催日時：令和元年5月21日（火）10時～11時10分

開催場所：北見工業技術センター 第3研修室

出席者：小原会長、有田副会長、小田委員、片山委員、木谷委員、坂口委員、佐々木委員、清野委員、森本委員

（事務局） 山田商工観光部長、清水商工観光部次長、小林観光振興室長、
 帰山商業労政課長、長瀬工業振興課長、高廣観光振興課長、
 境中小企業係長、柴谷中小企業係員

（傍聴者） なし

議 題：（1）令和元年度 商工観光部各課所管の中小企業振興関連施策について
 （2）第2次北見市産業振興ビジョンについて
 （3）創業支援実績について
 （4）中小企業振興施策（北見市中小企業融資制度）について
 （5）その他

【1. 開会】

（山田商工観光部長） ・開会挨拶

【2. 会長挨拶】

（小原会長） ・昨年度は中小企業振興プランの策定あたり、当審議会において3回に渡り審議いただいたことに感謝を申し上げます。
 ・今後は、当審議会として本プランの進捗状況を注視していくとともに、各委員の所属団体においても本プランの推進に向けてご協力を賜り、市全体で中小企業の振興を推進してまいりたい。

【3. 議事】

（小原会長） ・議事の（1）令和元年度 商工観光部各課所管の中小企業振興関連施策について、事務局の説明を求める。

（帰山商業労政課長） *主な説明内容

- ・中小企業振興推進事業について、昨年度策定した「北見市中小企業振興プラン」に基づく効果的な施策の実施に向けた検討を進めつつ、中小企業者や創業を目指す方を対象とした各種セミナーを実施する。また、多くの人に利用されるサービスを作り出し、人々の生活や行動に寄り添いながら世の中にイノベーションを起こし、事業規模を拡大させるビジネスである「スタートアップ」の支援に取り組む。創業支援では、日本政策金融公庫北見支店、北見商工会議所と連携を図り、女性を対象にした相談会を4月から毎月開催する。
- ・本年10月に予定されている消費増税による低所得者・子育て世帯への影響を緩和し、地域経済を下支えするため、プレミアム商品券を発行する。
- ・若者地元定着促進事業について、地元企業における人材確保を目的として、

道立北見高等技術専門学院の入校生に奨励金を交付し、地域のものづくり人材の育成・確保につとめるほか、国の地方創生推進交付金を活用し、東京圏からのU J I ターンの促進を図る。

- ・北見地域に就職を希望する大学生・専門学校生などに、就職に関する情報を提供してきた北見市大卒者情報センターを、今年度から北見市若者就活応援センターに改称した上で、情報提供対象者に高校生やU J I ターン希望者を加えるほか、若者就職サポート専用ウェブサイトを開設し、利用者の利便向上に努める。

(長瀬工業振興課長) *主な説明内容

- ・ふるさとテレワーク推進事業について、将来的なU J I ターンなどの移住・定住が見込める人材や企業に対するプロモーション活動をさらに充実させる。
- ・ICT産業創出推進事業について、ふるさとテレワーク推進事業の発展型と位置付け、今年度から3か年国の地方創生推進交付金を活用し、ふるさとテレワーク事業で進出した首都圏IT企業や北見工業大学、工業技術センター、地元企業が連携し、北見発のICT産業の創出を図る。
- ・柏陽町のハイテクパークについて、今年度は一部分譲要件緩和を行うことで、分譲促進に繋げたい。
- ・企業立地推進費の航空運賃補助金について、IT企業の進出の加速化・定着化を目的に、進出企業の従業員が本社と事業所を移動する際の航空運賃の一部を助成する。
- ・新エネルギー推進費の新エネルギー高効率利用促進補助について、太陽光パネルを既に設置している住宅において、新たに蓄電池を単独で設置する場合に、購入費の一部を助成する。

(高廣観光振興課長) *主な説明内容

- ・観光プロモーション及び広域観光連携事業について、本年度からの5年間を計画期間とする「第2期北見市総合計画〔前期基本計画〕」と連動し、観光振興に係る施策を展開するため、これまでの「観光推進プロジェクト」の内容や経過を踏まえ、継続的に事業を推進するため「北見市観光推進プロジェクト」を策定した。ハッカのまちをテーマにした北見市の観光イメージづくりをはじめとする6つの基本方針を定め、オホーツク圏の中核都市としての都市機能や、食や自然景観などの豊かな地域資源を生かした施策を展開し、着地型観光商品づくりを推進し、周辺地域と連携した広域観光を進め、誰もが立ち寄り、滞在したくなるまちづくりを目指す。
- ・サイクルアドベンチャーオホーツク推進事業について、オホーツク地域の食や景観など魅力ある資源を生かし、サイクリング観光客の誘客による地域の活性化を図るため、平成28年度から国の地方創生交付金を活用し、北見市、網走市、大空町の広域連携による取組を進めてきたが、本年度から小清水町も参画し、これまでの取組に加えてアウトドアの要素も取り入れていく。

- (小原会長) ・事務局説明に対し、意見や質問はあるか。
- (佐々木委員) ・太陽光設備に対する補助について、ずっと続く施策ではないと思われるが、
目途はどうなっているのか。
- (山田商工観光部長) ・再生可能エネルギーの普及を目的とした国の政策を背景に、市としてもソーラーのまちとして行政支援を進めてきた。FIT制度により、利用者には導入コストの一定程度は跳ね返っているものと考えられる。また、昨年9月のブラックアウトを受け、蓄電池の有用性が改めて認識されたことから、危機対応の点でも一定のニーズはあると考える。今後も国のエネルギー政策の変化を踏まえ、進めていきたい。
- (小田委員) ・新エネルギーに関し、廃プラをペレット化し、エネルギーに活用する取組をしてはどうか。
- (小原会長) ・関係部局と連携して検討いただきたい。
- (森本委員) ・商業労政課の若者地元定着促進事業と工業振興課のふるさとテレワーク推進事業で、「U J I ターン」という言葉が共通して使われている。お互いに連携しながら進めていけば効果があがるのでは。
- (小原会長) ・U J I ターンの希望者はどのように把握するのか。
- (帰山商業労政課長) ・高校生については高校と連絡を密にすることや、市が加盟している北海道人材誘致推進協議会が開催するU J I ターンに関するイベントなどに参加することで、希望者を把握していきたい。
- (山田商工観光部長) ・デジタル世代である高校生やU J I ターン希望者などが、市内の企業や人材募集などの情報を自ら探すことができるよう、専用ウェブサイトの開設に向けて現在準備をしている。
- (木谷委員) ・U J I ターンで北見に来た方の人数は、把握しているのか。
- (山田商工観光部長) ・全ての人数は把握していない。
- (木谷委員) ・取組に対する実績値として、人数を把握しておくといいのではないか。また、北見は災害に強いまちということも魅力のひとつだと思うので、うまく発信していければいいのではないか。
- (小原会長) ・意見を踏まえ、検討していただければと思う。

- (小原会長) ・議事の(3) 第2次北見市産業振興ビジョンについて、事務局から説明を求める。
- (長瀬工業振興課長) ・「地域資源を活かした産業活力の創造」をテーマとする平成26年度から5か年間の基本指針となる「第2次北見市産業振興ビジョン」で定めた事業について、妥当性、有効性、効率性、公平性を評価し、今後の方向性と理由を資料にまとめた。
- ・平成30年度で「第2次産業振興ビジョン」の期間が満了したが、今後においても本年度から新たにスタートした第2期北見市総合計画を基本に、産業振興分野に係る各種計画に基づき、取り組むこととなる。
- (小原会長) ・事務局説明に対し、意見や質問はあるか。
- (委員からの意見はなし。)
- (小原会長) ・議事の(3) 創業支援実績について、事務局から説明を求める。
- (帰山商業労政課長) ・北見市創業支援事業計画に基づく平成30年度の創業支援実績は、支援対象者は70人、うち創業者は15人となった。今後については、女性向け相談会の毎月開催やスタートアップ支援に新たに取り組むことで、創業希望者を掘り起こし、創業者の増加に努めてまいりたい。
- (小原会長) ・事務局説明に対し、意見や質問はあるか。
- (森本委員) ・日本政策金融公庫においても、女性の創業相談件数が増えてきており、希望業種も美容院や介護タクシー、子ども向けのサービスなど様々である。相談会についてもニーズはあると思うので、地道に続けていくべき。
- (佐々木委員) ・第二創業については、何か支援策があるか。
- (境中小企業係長) ・現時点で第二創業に特化した支援策はないが、今年度から取り組むスタートアップ支援を進めていく中で、既に事業をされている方の第二創業も含めて支援をしていければと考えている。
- (小原会長) ・議事の(4) 中小企業振興施策(北見市中小企業融資制度)について、事務局から説明を求める。
- (境中小企業係長) ・中小企業融資制度については、これまでも中小企業の資金需要に対して一定の効果をもたらしてきたが、刻々と変化する金融・経済情勢を受けて厳しさを増す中小企業の経営に対する支援を強化する必要があると考え、先

に策定した中小企業振興プランでも、融資制度の充実を盛り込んだ。

- ・今後、本融資制度の充実に向けた内容の検討と関係機関との協議を行っていくが、これらに先立ち、委員の皆さんからご意見をいただきたい。
- ・現段階における制度充実に向けた方向性としては、融資限度額の増額や融資期間の延長などの条件の緩和や拡充、またここ数年利用実績のない資金メニューのあり方を検討することを考えている。

(小原会長)

- ・事務局説明に対し、意見や質問はあるか。

(森本委員)

- ・設備資金の利用が少ないのは、市融資制度があまり知られていないからではないか。金融機関担当者向けの説明会を実施してはどうか。

(有田副会長)

- ・市融資制度の申請があった場合、どこが審査を行うのか。

(山田商工観光部長)

- ・市内の金融機関と市で金融担当者会議を実施し、市融資制度の変更点の説明や融資状況の確認を行っている。金融機関の皆さんからご意見をいただきながら、制度の見直しをしていきたい。
- ・金融機関において申請企業の状況を確認したのちに、市と保証付きの場合は信用保証協会でも審査している。

(小原会長)

- ・保証料の補給対象資金は、緊急小口資金と経営安定革新資金の2つか。

(境中小企業係長)

- ・そのとおりである。

(片山委員)

- ・市融資制度の利用が少ないのは、昨今の低金利の状況から、より有利な条件を提示されるケースもあるのではないかと。近年にない低金利などの環境にあることも考慮すべきなのではないかと。

(小原会長)

- ・議事の(5)その他について、委員から何かあるか。

(佐々木委員)

- ・中小企業大学校の研修費用に対する補助を実施してはどうか。人材育成に有効なのではないかと。

(山田商工観光部長)

- ・商工会には同様の支援制度があると認識している。中小企業大学校を運営する中小企業基盤整備機構からも、同様に支援制度の実施に係る要請を受けている。

(小原会長)

- ・北見商工会議所も含めて、今後検討していく。

(有田副会長)

- ・北見高等技術専門学院や北見工業高校の学生はほとんど管内出身だが、6割以上は市外へ出て行ってしまう実態もあり、学生には北見の企業に対す

る良いイメージが無いのではと感じる。U J I ターンの取組に関しては、地域の事情や良さをよく知る方に担当していただいた方が、学生やU J I ターン希望者に対してより効果的に地域の魅力が伝わるのではないか。

(小原委員)

- ・貴重な意見をいただき感謝する。

【4. 閉会】

(小原会長)

- ・以上で本日の審議会を終了する。